

『令和 8 年度 相談援助研修』に参加して

報告者：五箇山在宅介護支援センター 笹川 久美子

令和 8 年 7 月 2 4 日(金) 相談援助研修「相談面接の理論と技術を学ぼう」に参加しました。講師は日本女子大学名誉教授である渡部律子氏で「ケアマネジャー面接力チェック表」を使用し自己の面接内容の評価、事例を使用し初回面談～中間に至る相談援助技術の基盤となるバイスティックの 7 原則、その応用、面接の起承転結、事例や DVD を使用した演習、ロールプレイなど、これからもっと学びを深めようと感じた大変実り多い研修でした。



講師 渡部 律子氏



演習を通して、支援者が単なる情報提供者や問題解決者ではなく、利用者・家族の伴走者であることの重要性を痛感しました。特に、初回面接における自己紹介から守秘義務の説明、ケアマネとの関わりの背景確認や今後の協働体制の提示は、信頼関係構築の第一歩として不可欠だと感じました。相手の言葉の背景にある感情や真意を汲み取るため、感情の反射や明確化、要約を意識すること、また、利用者・家族が持つ潜在的な力を見出す努力や、今後の生活を具体的にイメージできるような情報提供をすることも、自立支援には不可欠だと再認識しました。

面接終盤では、話し合った内容の確認と合意形成を丁寧に行い、理解のズレがないかを確認すること。この一連のプロセスは、利用者・家族一人ひとりの人生に寄り添い、共に未来を創造していく姿勢が、真の支援に繋がるということを改めて教えて頂きました。



今回の研修で、相談援助職に求められる多岐にわたる力が体系的に整理され、自身の課題が明確になりました。「援助者としての基本的視点」と「信頼される関係形成力」は、支援の根幹をなすものであり、自己覚知を深めることで、より質の高い関係性が築けることを再認識しました。「総合的アセスメント力」は、特に生育史を深く掘り下げる重要性を学び、個別支援計画の精度向上に繋がると感じました。「相談援助面接力」では、傾聴や質問技法だけでなく、相手の強みを引き出す関わり的重要性を再確認しました。また、「制度、資源を知り調達できる力」と「人間とその人を取り巻く環境に関する知識」は、支援の幅を広げ、多角的な視点から支援を展開するために不可欠です。これらの力を総合的に高めることで、利用者中心の質の高い支援を提供できる援助者になれるように今後も研鑽を積んでいきたいです。

